

久良岐便り

第71号



久良岐の近くを流れる大岡川は桜の名所です。

晴れた日には、たくさんの人が両側の歩道をそぞろ歩きをしています。

人間の世界の疫病や戦争などまるで知らないように、今日も川は

桜の色を映して流れていきます。私たちも春の風を胸いっぱい吸って

さあ 新年度が始まりました。

社会福祉法人
久良岐母子福祉会

〒232-0063

横浜市南区中里 3-23-1

☎ 045-731-5994

fax 045-721-3166

<http://www.kuraki-boshi.or.jp/>

令和5年度



久良岐母子福祉会 辞令交付式

令和5年4月1日。

大岡川沿いの桜も満開で暖かい春風の中、午前中に久良岐保育園、くらき永田保育園では入園式が開催され、両園とも今年も多くのかわいい園児たちを迎えることができました。



新任職員研修を前に 各施設長と記念撮影

そして午後には、フレッシュな職員 12 名と当会各施設長等が集い、辞令交付式を執り行いました。辞令交付後、長井理事長から“強く・正しく・明るく”の法人理念と、“こどもまんなか社会”実現のために失敗してもそこから学ぶ強さの大事さを伝えられました。また、「本日はこども家庭庁の設立、こども基本法の施行の日でもある大事な日でもあります。」と入職の新鮮な気持ちを高める訓示を頂きました。

訓示後、新入職員代表が宣誓書を読み上げ、久良岐の一員として歩み始めます。



新任職員研修

令和5年4月1日

久良岐母子福祉会館 研修室にて

『こどもの権利・新任者の権利と義務』

講師 社会保険労務士事務所こどものそら舎
関山 浩司氏

今年度は14名の新任職員を迎えて、1日目は関山浩司氏の研修です。

辞令交付式後の参加、皆さんマスクはしていても、緊張している様子が伝わってきます。

まずは、グループワークで雑談キャッチボールを実践してみます。名前を伝え、挨拶を行い、意図的な雑談をスタートします。雑談をすることで、少しずつ緊張がほぐれていくのを感じます。いくつかのワークやロールプレイを行いながら、「子ども」の視点で考えて学びます。

例えば、「ある動物」のワークでは、「子ども(1歳)から見た大人」は「大人から見たある動物」と同じくらいの大きさです。そこである動物をイラストに描いてメンバーと答え合わせしてみます。答えは「きりん」なのですが、絵に描いてみるとなかなか難しい。「似てる～」の声や笑い声などが聞こえます。子どもにとって、きりんが近づいてくることはビックリ、怖いと感じることもある。その感覚を子どもが持っていること、私たちは「子どもの視点」の大切さを改めて実感しました。



又、「みんなでする風通しのよい施設づくり」の学びの中では、ヒヤリハットの逆の発想である「ジワリホット」のワークをしました。ジワリホットとはよかったことやうれしかったことを探す考え方のことです。

大変にポジティブなアプローチであり、久良岐でも取組みたいものでした。

(人材育成委員：伊神)

4月3日

久良岐母子福祉会館 研修室にて

『自己紹介と施設紹介』

説明者 各施設の代表職員

今回の研修は、一昨日の研修で宿題として出されていた【2分間 自己紹介】から始まりました。緊張感のある中、この仕事に就いた理由を話す人・自分の経歴や地元のことを話す人・学生時代に取り組んできたアカペラを披露する人など個性豊かな自己紹介となり、新人職員にとっては同期を知るきっかけの場となったのではないのでしょうか。



後半は、常務理事による法人の歴史紹介から始まり、各施設の紹介へと続きました。久良岐母子福祉会が生まれたのはどんな時代だったのか、法人全体で目指していく理念【強く・正しく・明るく】に初代理事長が込めた思いとは何か、母子生活支援施設・子ども家庭支援センター・保育所・乳児院はそれぞれどんな施設でありどのように理念を追求しようとしているのかが語られました。

研修で緊張するのは新人職員ばかりではなく、施設紹介をする先輩職員にも緊張感がありました。自分の施設のことをしっかりと伝えたいと思う責任感からくる緊張感。こうした先輩職員の真剣さが新人職員にも伝わることで、また新たな2023年度の久良岐母子福祉会が作られていくのだと思います。

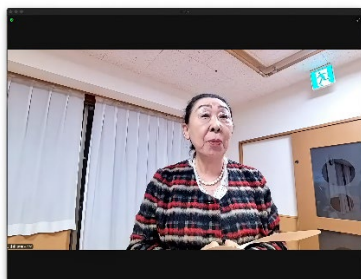
(人材育成委員 栗原)

オンライン久良岐母子福祉会 歓送迎会

令和5年3月28日、中里・永田・戸塚の拠点をオンラインで結び、歓送迎会を開催しました。オンラインでの開催は今年で2回目。

普段から色々ご協力を頂いている小比類巻さん・持田さん、また開催実行委員の事前準備のおかげで、今年も無事、開催することができました。コロナ下の中で日々の事業活動継続に尽力している職員に“なにか報いてあげる場を”との気持ちと、新しく仲間となる職員を迎える場、新しい道に挑んでいく職員を送る場として、お弁当を食しながら楽しいひと時を過ごしました。

今年は開催数日前に長井理事長の喜寿の誕生日を迎えており、進行の中で職員よりビッグサプライズ！ 各施設職員より理事長への HAPPY Birthday メッセージが送られました。



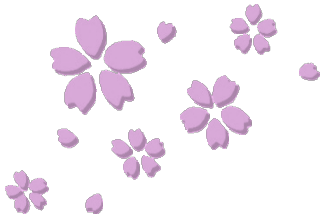
久良岐保育園 新園長 中村則子

また、3月31日付で久良岐保育園 内田園長が退任されることが、改めてこの会で発表されました。長きに渡り久良岐保育園をけん引してきた内田園長に長井理事長が感謝の意を述べられました。

新園長には久良岐保育園 中村主任が4月1日より園長の任に就き、新体制で令和5年度を迎えることも同時に発表となりました。

内田先生は4月より、法人地域活動の中心を担っていただくことも合わせて長井理事長より伝えられました。

今年もこの会では表彰者の発表が行われ、日々の成長は若手から中堅へ、ベテランへと技能を高め、久良岐の顔になっていきます。



母子生活支援施設くらき
田代 安昭



くらき永田保育園
原富祖 洋子

2022年 全社協会長功労表彰 通算20年以上



くらき永田保育園
金子 亜希子



久良岐保育園
中村 則子

2022年 県社協表彰 通算15年以上



母子生活支援施設くらき
河崎 大輔

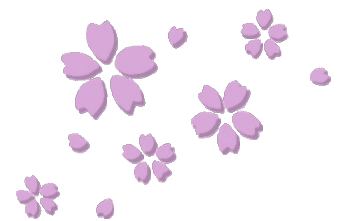


母子生活支援施設くらき
水上 仁司



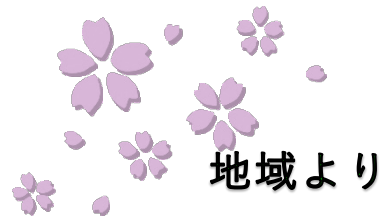
久良岐保育園
奥山 智子

久良岐母子福祉会 勤続表彰(10年勤続)



受賞者の皆様、おめでとうございます！

入学 おめでとう



3月に卒園した園児たちが、小学校の入学式後すぐにランドセルを背負った雄姿を見せて来てくれました。久良岐は春も実りの季節です。



中里こどもふれあい広場 いきいき

2月25日・3月11日（土）ひと月に1回のこどもふれあい広場いきいきが久良岐保育園で開催されました。

季節は春。お花の蕾がほころぶように、野山で小鳥がさえずるように、私たちも又 自然と共に生きていますから何だかうれしくて広い園庭に集まって遊びたくなる… 参加者を見ているとだれもがそのように思っていると強く感じました。

その証拠に砂場で作られる山は大きくて高く山作りはとどまる気配もありません。小学生の砂の技に小さいお友だちが尊敬のまなざしを送っていました。



施設からのお便り

久良岐保育園

久良岐乳児院

母子生活支援施設 くらき

くらき永田保育園

飛び出せ！！

水色ジャンパー！！

久良岐保育園

水色ジャンパーは

くらきの印！！



『水色ジャンパーは久良岐の印』。

私たちは地域の方たちと繋がっていきたい。その繋がりを深いものにしていきたい。という想いから、これからも自ら地域に出向いていきます。

私たちは次のことを実践していきます！

地域の中で生活する私たちを少しでも知ってもらうため、そして地域の仲間として溶け込んでいかれるように、地域に出る時は水色ジャンパーを着て出かけます！

この街に久良岐の職員がどこにいるのかを探すと、ここでも、そこでも見かける！そんな存在を目指します！

このジャンパーを見かけたらぜひ、声をかけてください！！



ここにもいた！そこにもいた！水色ジャンパー！！

弘明寺商店街の近くにもジャンパー出現！！

いつも久良岐保育園の給食でつかう、お魚屋さん『船田』！

ほっかほか会のおむすびの具（鮭）を買いに行きました。

買い物に行く時に「私がいきます！」と名乗りでた職員。実際にお店の人と会って会話をしたことで、普段給食で食べている、お魚をより身近に感じるようになりました。給食の時に船田さんの顔が浮かび、子どもたちとの会話もより一層はずんでいます。



これまで、この久良岐便りでは、地域活動体験記から始まり、たくさんの地域の方とのつながりをお伝えしてきました。これからは広報委員の私たちだけではなく、久良岐の職員全員に地域の方たちの温かさや、この街だから、子どもたちが安心して生活できていることを伝えていきます。まずは、久良岐のことを知ってもらうためにトレードマークの水色ジャンパーを着て街に飛び出してきました。

乳児院の“広く長い”地域とは... vol.4

令和4年度の久良岐便りでは、“乳児院の広い支援、長い支援”について、お伝えしてきました。

今号では、久良岐乳児院での実際の具体的な取り組みの様子や、今後子ども達を取り巻く社会の変化などについてお伝えします。

ー入所と退所、その後ー

昼夜問わず入所する子どもたち
そして、立派に退所していきます。
温かく受け止め、そっと背中を押し
これからの幸せを願い、送り出
します。
育った場所・職員に会いに遊びに
来ます。



ーコロナ禍の子どもたちの生活ー

入所施設の乳児院では生活を止めることはできません。
子ども達の命は守る。
それだけではなく、経験・生活を止めることのないよう
に、子ども達の日々を大切にします。



いってらっしゃい!はじめまして!おかえりなさい!



いつもありがとう!

これからもよろしくね!



ー子どもを取り巻く社会の変化ー

令和5年4月には
子ども家庭庁が設立!
子ども基本法も施行されました。

ー令和5年度久良岐の取り組みー

「地域で養育、保育、子育てしよう!」
をコンセプトに活動します!

ーこれからの乳児院ー

地域の支援を大切にします。
職員皆で、“地域”を知ります!



～昨年度の寄付～

ありがとうございました!



乳児院の子どもたち | ページ ～春～

節分
鬼が来た!!



福の神が春を連れて
やってきた!!
ひな祭り・お花見



久良岐乳児院

春のおやつ

いちご大福

お家でもいちご大福が作れます!
ぜひ挑戦してみてください☆



材料

- ・いちご(小さめ) 10個分
- ・砂糖 50g
- ・白玉粉 130g
- ・こしあん 190g
- ・水 190cc

作り方

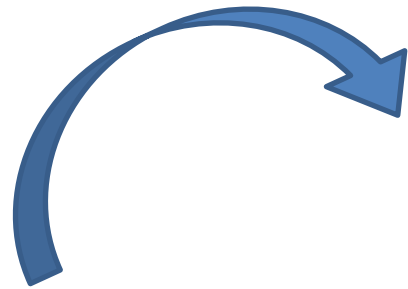
- いちごは洗ってヘタを取り、水気を拭き取る。
あんこで薄く包み丸める。
- 耐熱ボウルに白玉粉、砂糖を入れ混ぜる。
水半量を少しずつ加えながら、ダマがなくなるま
で泡だて器でよく混ぜる。
さらに残りの水をくわえてなめらかになるまで混
ぜる。
- ラップをしてレンジで3分加熱する。
取り出して木べらでよく混ぜる。
もう一度ラップをして2分加熱。木べらで混ぜる。
- バットに片栗粉を広げ、③の生地をおとす。
表面にまんべんなく片栗粉をまぶし、粗熱が取れ
たら等分して①を包む。
片栗粉をまぶして出来上がり!!!



『キャンドルナイト』

地域と子どもが一体となって「つながる」ことをテーマに実施されました。地域を拠点とする団体や施設が協力し、1回目よりも規模を拡大しての開催。くらきやこ家センの子ども達の作品が、他施設利用者や地域住民の方の作品と共に会場に飾られ、みんなの心を温かな光が優しく照らし、地域の繋がりを感じられたイベントでした。

キャンドルナイトは今年も開催予定です！
年間を通して、引き続きプロジェクトに参加していきます。



“顔の見える関係づくり”を目指して…

キャンドルナイトの打合せ等を通して、私たちの住む地域の住人の方々をはじめ、自治会や関係機関ともご縁をつなぎ、「顔の見える関係づくり」を行っています。

コロナ禍前は、地域の防災訓練や夏祭りに参加して、地域の方との交流を深めたり、付近の大学の大学祭に子ども達の作品を展示したり、様々な活動に、利用者と共に参加してきました。この3年間はそのような活動も下火となり、地域と関わる機会が減少してしまっています。

少しずつ日常が戻りつつある中で、子どもを温かく見守る地域の輪を築くためにも、挨拶を通して顔の見える関係づくりを積極的に行い、アイデアの共有や、くらきの力を地域で活かすことができるようなきっかけ作りを意図して行っていきたいと思っています。

まずは元気に**挨拶**から！
～子どもも大人も全員で～
挨拶から、つながりの種をまこう！



母の会の役員さん達が毎月掲示板を飾り付けてくれています！地域の方が立ち止まって見てくれることが増え、そこから会話の機会に繋がることが沢山ありました☆

地域や人、関係機関など様々な資源について学び
相手を知り、くらきを知ってもらい、つながりを深めていきます



春は出会いと別れの季節。

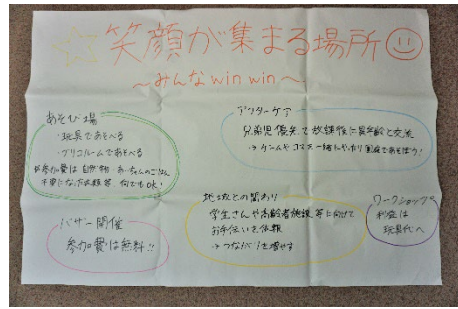
2年に渡り、学童のボランティア活動に参加してくれていた二名の学生も春から新社会人です！

毎月欠かさずくらきに来て、子ども達と身体を動かして沢山遊んだり、中高生以上の子ども達には学習支援を担って、学童後に勉強を教えつつ、年齢的に近い立場で話を聴いてくれたりしました。子ども達は、「ありがとう会」をサプライズで企画し、泣き笑いありの素敵な会になりました。ボランティアの二人は、子ども達と関わるなかで、自分自身が一番変わったと振返られていました。晴れ晴れとした笑顔を浮かべ、くらきを卒業していく二人ですが、これからもくらきとのご縁は変わらず続いていきます。

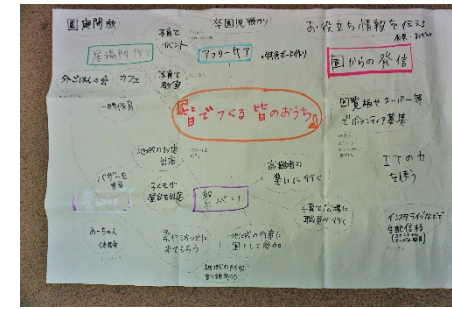
2年間ありがとうございました！



地域で保育をしよう！



地域とかかわって行く保育園になるにはどうしたらいいのかを保育士で話し合いました。各グループに分かれて自分たちがどのようなことができるのかアイデアを出し合いました。今年は下の4つに力を入れて行っています。



この布は なんでしょう？



今回、山陽印刷さんからこちらの布を提供していただきました。これは印刷をする際に出てくる廃材です。普段の生活の中では目にすることもなく、あまり知られていないものですが、保育の中に自然と紛れ込んでいきました。実際にこの不織布が迷路の壁や風船に貼ってはりに大変身！

空きスペースを活用

年齢問わず、誰もが遊び場
親子でのワークスペース



保育園が休みの日に実際に遊んでいる玩具やゲームを使う日を設けました。親子はもちろん、卒園児も遊びに来てくれています。今後は参加者の幅を広げ、誰もが参加できる場にしていきます。

文化継承

日本ならではの文化を伝えていく

昔からの良いものは残し、コロナ禍に新たに生まれたコミュニティなども一過性のものにするのではなく、継続していきます。



コンセプトを実現するための3つの行動指針

施設を飛び出して街にでよう

職員全員がリンクワーカーに

街を舞台に保育（養育）しよう

街を舞台に子ども屋台

屋台を引っ張り公園へ

園庭では自分たちで採りに行った”梅”で作った『梅ジュース屋さん』が行われています。こういったものを園庭だけでなく近くにある公園にも足を伸ばし振舞っていきます。



養成校や大学と連携

研究への参加や行事への参加



学生が作ってくれた玩具や保育とは異なる分野の専門学校（IT分野など）が行事に参加してくれています。また、学生が研究していることについて保育士も混じって話し合いをし、現場からの声を直接伝えています。



子どもたち自身も見たことのないものに自ら手を伸ばしていました！



山陽印刷株式会社の宇井正佳さん（左）と松島巧さん（右）

編集後記



長年、当会の広報委員長を務めてこられた内田先生よりバトンを受け取りました。文章のテイスト感が変わり皆様にどう伝わるか不安ではありますが、今後とも「久良岐便り」を宜しくお願いします。（嶺岸）

令和4年度 広報委員

吉田 高山（久良岐保育園）

中島 平良（久良岐乳児院）

太田（母子生活支援施設くらき）

斎藤 曾我（くらき永田保育園）

広報委員長 内田礼子（久良岐保育園）

令和4年度の委員の皆さん、

広報活動お疲れさまでした。

新広報委員長 嶺岸（法人本部）

第71号

令和5年4月13日発行